

イノベーションプラットフォームの持続的な発展のためには、COIプログラムによる支援終了後も引き続き活動を担う人材の育成が欠かせません。COIプログラムでは、構造化チーム「若手部会」の活動を中心に、COI2021会議、COI若手連携研究ファンドなどの取り組みを行い、若手人材の活躍促進に取り組んでいます。

COI2021会議

- COI2021会議は、未来を切り拓く若手人材による共創の場です。プログラム終了後の核となりうる人材の育成、研究テーマの発掘、事業化アイデアの創出を目指します。
(主な目的)
- ① 未来社会の創造を目指し、社会インパクトのある事業・研究提案の発掘
- ② 人材育成、プロデューサーの発掘・育成
- ③ ハイリスク・ハイインパクトのテーマ創造



【第2回COI2021会議(2017年3月18日～20日於:北海道大学FMI国際拠点)より】

COI20.0

- 第2回COI2021会議による若手チームの提案から生まれた制度です。
- COI20.0は、COIプログラム委託研究開発費雇用の若手人材(ポスドク等の研究者やリサーチ・アドミニストレーター等の研究開発マネジメントを担う人材等)が、人件費の対象となっているエフォート(従事率)のうち20%について、若手人材自身の発意に基づき、将来のイノベーション創出に資する活動を自由に行うことを可能とする制度です。
- 若手人材の自由な研究及びキャリア形成に資する活動を推進し、イノベーション・プラットフォームの活動を担う人材の育成を促進します。

COI若手連携研究ファンド

- 社会実装に向けた研究開発を加速するため、ビジョン横断的又は拠点横断的な研究開発連携(連携研究)の活性化を図ります。
- 従来の枠に納まらない斬新で柔軟な発想やこれまでの常識を越える発想、異分野・異業種・他機関との対話等を実行する行動力を有する若手研究者が、研究企画から主体となって連携研究を行う支援制度として「COI若手連携研究ファンド」をCOIプログラム内にて実施しています。

支援内容

2拠点以上の連携研究テーマであり、連携研究テーマを構成する研究課題を担当する若手研究者による研究チームからの提案を募集・選定し、若手研究チームによる連携研究を推進します。

(平成30年度実施 21件)

連携研究テーマ	課題代表者
拠点発事業化の加速を目指したCOIアクセラレータの手法開発およびその実証研究	富田竜太郎(名古屋大学)、川谷健一(弘前大学)、森下裕介(東京大学)
健康寿命の延伸を目指したマイオカインの機能解明とそのサプリメント化の実証に向けた基盤研究	高田真吾(北海道大学)、菅唯志(立命館大学)、棗寿喜(順天堂大学)、藤野剛雄(九州大学)
大型3DプリンティングによるCFRPペレットを用いた革新的建築壁モジュールの設計方法に関する研究	益山詠夢(慶應義塾大学)、廣瀬大祐(金沢大学)、上田久偉(金沢工業大学)
からだにやさしいライフスタイル選択サポートの創造—生物時計同調と快適睡眠で高める女子学生のQOL—	山仲勇二郎(北海道大学)、元池育子(東北大学)
低出生体重児の客観的理解を目指した生理学的指標の解明と社会性獲得過程の評価方法確率に向けた基盤研究	吉村優子(金沢大学)、長和俊(北海道大学)
肌の保湿とハリを取り戻す美容液とその効果を実感できるセンサシステム	干場隆志(山形大学)、武元宏泰(東京工業大学)、田畑美幸(東京医科歯科大学)
装着感と拘束感のないセンサ(Stress Free Sensing)で取得する生体ビッグデータによる新しい医療デバイス開発への挑戦	井上雄介(東北大学)、横田知之(東京大学)、石井耕平(香川高等専門学校)
腸内フローラ判定トイレと改善サプリの開発	山崎聖司(大阪大学)、井上久美(東北大学)、山村凌大(北海道大学)
社会実装を目標としたバイタルデータアート化システムの実現	岡田志麻(立命館大学)、沢田秀司(順天堂大学)、小川類(東京藝術大学)、中山雅人(大阪産業大学)、正田悠(立命館大学)
低侵襲脳卒中治療を目指した、患者と医療者に優しいバイオエンジニアリング技術に関する基盤研究	寺村裕治(東京大学)、藤本裕之(京都大学)
皮膚組織液による皮膚がん診断・薬剤投与パッチの開発	甲斐洋行(東北大学)、大黒耕(東京大学)
マイクロ波給電によるウェアラブルマルチセンシングシステムの開発	松井弘之(山形大学)、篠原真毅(京都大学)
スポーツテクノロジーによるアスリートの事故防止と全力発揮支援	吉田慎哉(東北大学)、仰木裕嗣(慶應義塾大学)
認知症の予防と早期発見のためのビッグデータ多層解析	中村智洋(東北大学)、多田羅洋太(弘前大学)
地域・職場でのロコモティブシンドロームの早期発見、予防・改善を目指した生活機能低下予防システムの構築	相馬優樹(弘前大学)、大藏倫博(筑波大学)、松村耕平(立命館大学)
FDG PET報告書のビッグデータ解析による画像自動診断システムの開発をめざした研究	進藤裕之(奈良先端科学技術大学院大学)、平田健司(北海道大学)
膀胱がんのような多発性・びまん性の表層がんを超低侵襲的に治療する極微小光学的システムの創製	Stauss Sven(東北大学)、野本貴大(東京工業大学)
ORNi-PCR法を利用した細菌叢の高解像度・低コスト解析法の開発	藤田敏次(弘前大学)
変形性関節症の進行予防に向けた早期変形性関節症の包括的身体機能評価と予後予測に関する基盤研究	佐々木英弘(弘前大学)、梅田孝(名城大学)
ウェアラブルテラヘルツセンサの開発	荒木徹平(大阪大学)、河野行雄(東京工業大学)
ほくして眠る:良質な睡眠獲得のための刺激技術の実証～中医学的刺激法の導入に関する検討	Jeong Hieyong(大阪大学)、岡田志麻(立命館大学)